

# KTK ひゅうまん 京都

No. 552 2022年11月号

編集／京都障害児者の生活と権利を守る連絡会 〒603-8324 京都市北区北野紅梅町85 弥生マンション内  
編集発行責任者／池添 素 電話&FAX(075)465-4310 購読料 1部80円 年間購読料1,000円(送料実費)

- P.1 左大文字 つどめ
- P.2 常任委員会から 池添 素
- P.3 入院の記 松本 美津男
- P.4 血の染みついたパトシ 中村 暁
- P.5 電動車いす「まんまる号」ドライバー日記 山本耕平
- P.6 ジョニーの炸裂日記 ライスチョウジョナ
- P.7 つれづれあらぐさ 中山 恵美子
- P.8 2+2=詩 富士一文
- P.9 障害のある人の権利を守る北障連から 濱中 博
- P.10 365歩のマーチ 安藤 史郎
- P.11 知っ得情報 松本 美津男
- P.12 気楽にお話ししましょう会 沖田 友子

## 左大文字

季刊「通販生活」という雑誌をご存じですか？▲100万を超える読者がいるというこの雑誌の「2022冬号」が手元に届いたが、とても面白い巻頭特集を組んでいる。雑誌モニターを対象にオリジナル調査を行っている。1つは、男性介護者自身の、2つは近い身内に介護している男性がいる女子の目から見た男性の介護。前者は普通にあるが、後者は斬新。長年この分野を手掛けてきた私だが、初めて目にする内容だった▲身内の女性たちは主に介護を担っている夫や兄弟などをどのようにみているのか、その心情はどのような思いがあるのだろうか。楽しみに調査集計の作業を待っていたのだが、案の定とても興味深いデータが揃った▲そうだよね、こんなのあるよね。あるあるエピソードも嬉しかった。一実の息子(私の弟)が近くにいることで、介護されている母が喜びを感じている。要介護にもかかわらず、母親が息子の面倒を見ていような時があり、逆にしっかりする(58歳、東京都)。このイラストが秀逸で、掃除に精出す息子(弟)に「シャツ入れな!風邪引くよ」と叱る母、離れでそっと見守っている娘(姉)が言う。「どっちが介護者よ!」▲こんな場面、確かに自分にもあったな。笑えてそのうち少し泣けてくる。この雑誌、もう sold-out!

Canめ



「黒猫」  
渡辺あひる

# 常任委員会から

〈完成!〉

2020年7月に京都市左京区で起こった支援学校高等部2年生の児童を母親が命を奪ってしまつた事件は衝撃的でした。あまりにも身近に起こつたことと、もしかしたら自分だつたかもしれないと思つた人たちは、このまま終わりにすることができないと何度も会議を開き3度のシンポジウムを企画してきました。その中で明らかになつたことは、障害当事者や障害のある子どもを育てている親は、将来の暮らしについて、その年齢にかかわらず大きな不安の中にいるということでした。その不安をもつと具体的に明らかにしなればとの声も上がりました。そこで、実行委員会では京都市内に暮らす知的障害のある当事者を育てている保護者にアンケートを

〈集まるう〉

取り、課題を明らかにしようと試みました。そして、報告書「京都市に暮らす障害のある人・家族の生活実態調査―安心して暮らせる地域をめざして―」と京都市への要望書がまとまりました。

たくさんの方に報告書の内容を知っていただきたくて、第4回のセミナーを開くことにしました。12月25日(日)14時から16時まで佛教大学二条キャンパスで開催します。報告書の内容について詳しく課題を説明します。さらに、要望書について、さまざまな立場から発言をお願いしています。久しぶりの対面での開催です。みなさんもぜひ会場で聞いてください。そして、京都市への要望に対しての返答も注目です。

市民の生活に必要なことをどんな切り捨てている目に余る京都市政がどんな回答を寄せてくれるのか、気になるところです。お待ちしています。

〈介護保険改悪反対〉

国の社会保障審議会では、2024年の制度「改正」に向けて、更なる負担増とサービス削減をすすめる議論が始まっています。具体的には①現在原則1割の利用料を原則2割負担に変更する。負担が増えることで低所得者の利用抑制が進むことが心配されます。利審議会が意見をとりまとめる12月までに2割負担の対象拡大、ケアプランの有料化、要介護1、2のサービスの保険外しなどの改悪を断念させなければなりません。全国的に署名活動が取り組まれています。②2015年の改悪では、要支援1、2の方が介護保険から外されましたが、今回は

給付対象から外します。要介護認定者の7割が介護保険から外されます。③ケアプラン作成の有料化です。ケアマネージャが要介護者のサービスを受ける計画を策定することですが、現在は無料で全額公費負担です。有料ならケアプラン作成を思いとどまる方が出てくることが予想されます。

このような改悪を許せば、低所得の高齢者は介護保険サービスが受けられなくなり、状態の悪化につながると思われます。さらに京都市では8日に開催された京都市施策推進協議会の資料では、介護予防事業「卒業」に加算、総合事業における移動支援サービスなど、介護保険第改悪の先取りのような内容が検討されています。介護保険料を払っているのに、高齢者がサービスを受けられなくなる動きが急ピッチで国と自治体で進められています。

池添素(京障連事務局長)

## 入院の記 (5)

12月28日からは午前と午後各1時間リハビリ。PTさんとOTさんがリハビリをしてくれるのですが、OTさんもPTさんと同じようなマッサージ的な事やトレーニングなどをしてくれるのは意外でした。

1日3時間リハビリやる方がいいので自主リハビリも頑張ってください、と言われたので、大した距離ではありませんが、病室から遠い方の突き当たり迄ゆっくり歩くようにしました。

突き当たりには小さなテーブルの上に花と10冊程の本があり、誰かの寄付だったのか、不釣り合いな豪華な椅子もあり、そこに座って休憩をしました。

12月30日、65歳以上の患者は1日370円の光熱水費を負担してもらおうと書いてある廊下の壁の張り紙に気づきました。な

んと回復期リハビリ病棟は介護保険に合わせると言うのです。同じリハビリでも年齢による差別、65歳問題がありました。

大晦日には、にしん蕎麦、元日の朝は、可愛らしい丸餅が二つ入った白味噌のお雑煮ができました。



昼食が配膳された時は、思わず「うー、美味しそう!」と叫びました。病院でこれだけの種類のおせち料理が出るとは予想だにしていませんでしたから、本当にうれしかったです。

夕食も普段より一ランク上の感で、添えられたカードの心遣いも嬉しく、ご馳走に満足のい

く元日でした。

入浴では少し運が悪く、転入院した27日が入浴日だったのに、検査漬けで入浴できず、次の入浴日は31日でしたが年末で入浴中止。これほど長期間入浴しなかったのは小学1年の手術入院以来だと思います。

1月3日、まだ、湯船にはつかれず、イスに座ってシャワー

でしたが、湯船からのかけ湯もしてもらい、頭も洗って新年らしくスッキリしました(手摺にしがみついて女性看護師さんにスポンポンでお尻を洗ってもらうのは少し恥ずかしかったですがね)。1月7日入院以来、初

めて浴槽に浸かれました。座浴ということ浴槽に取り付けられたイスに腰掛けて、座面が回転して足がまず湯につかる訳です。そこで、両腕で浴槽の縁を保持して更に体を湯に浸けたら、看護師(?)さんが「ええ!ちよっと」と小さく叫びました。

イスは回転だけではなく、座ったまま湯船の底まで沈んで行くものだったので。入浴補助具のことはある程度知っているつもりでしたがこの機能は知りませんでした。改めて浸かり直すと、壁側でない方の浴槽のふちが10センチほどせりあがって、その分湯を足して肩近くまで湯に浸かる事ができました。便利になったものです。

湯に浸かって気持ち良くなり、「これやったら温泉の素持つて来たら良かった」なんて軽口をたたきました。松本美津男(京障連代表委員)



病院浴槽

# 血の染みついたバトン

中村 暁（医療ジャーナリスト）

## ② 私泣ける

「忘年会はありそうですか」と聞く。「（コロナが怖いので）

そろそろクリスマス、年末

とテレビが言い始める時季になつてきた。報道番組を観て

いたら、東京での街頭インタ

ビューが映し出された。夜の

都会、街路樹がイルミネーシ

ョンに飾られた路上で女性2

人がスマートフォンで写真を

撮っている。インタビューア

は「写真を撮るときはマスク

を外されるんですね」と話し

かける。女性のどちらかが「も

う外ではマスクを外して良い

って言われているので、せめ

て写真の時だけは」と答える。

キレイに撮られた写真が映し

出される。写真にウイルスは

写らない。次はマスクをした

若い男女。インタビューアは

「忘年会はありそうですか」と聞く。「（コロナが怖いので）

数把握」さえ止めてしまった。あげくに今、第8波が来たら「（医療がひつ迫しないように）高齢者等ハイリスク者として小学生以下の子ども以外はまず自分で検査して、自宅療養を」と言っている。まるでコロナになっても医者にかからなくて大丈夫ですよ、と言われているかのよう思える。なのに一方で「外出するな」である。一体コロナは怖いのか怖くないのか、どっちなのか。ムチャクチャである。

の入院医療コントロールセンターは「SpO2が95%あるから自宅療養」と判断。ご家族は「このまま死んでしまう」と覚悟したそうです。結果的にその方は一命をとりとめたが、この事例を通してドクターは書いています。「高齢者患者が亡くなるのはコロナ感染症という疾患が原因ではなく医療側の対応が不十分である人災ということがわかりました」。

クリスマス、マスク、忘年会、「診療拒否」、入院不可…。為政者と「システム」に振り回される私たちが、それでも楽しくありたいし、幸せを感じたい。

「写真の時にはせめてマスクを外す」という健気さに、私は泣ける。

の外出自粛の要請を強化できるようにする方針を固めた」とある。だが国は一方で検疫を緩和して海外旅行客招き入れているし、感染した人の「全

は陽性なので「診療拒否」、府

# 電動車いす「まんまる号」 ドライバー日記 ⑦

山本耕平

車いすの操作は、ずいぶん上手になってきました。ただ、時々トラブルが起きます。先日は、教壇へのスロープからまんまる号とともに転落。当日、スクールジヨブの学生さんより早くに教室に到着し、教壇で授業の用意をと思った慌て者の私ゆえの失敗でした。教室のスロープは、

私が悲鳴を。右腕に大きな内出血が。強固なまんまる号は、私でも修正できるほどのコントローラーの曲がりのみでした。補装具の車いすが強固であることは、車いすを頼りに生活を豊かにする私たちにとって心強いことです。

角度なのです。いつもは、まんまる号を手動にし、学生さんに押し頂きます。ただ、その日は、どうしても授業が始まる前に学生たちに見せる動画を準備しなかったのです。

スロープを登り教壇に到着する直前で、まんまる号が「ピピピ」と、「苦手だよねーこの角度」との悲鳴を。直後に、今度は、

段差をつまぐ認識できず、私が操作するまんまる号は、「ピ」という短い悲鳴とともに、横転しないもの大きく体制を崩すこ

とが少なくありません。

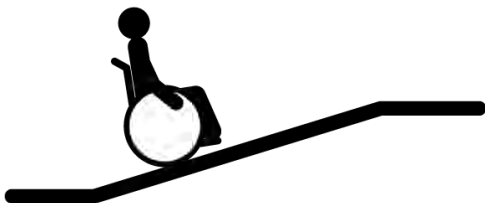
ふたつ目に苦手なのは、角度のある坂です。この坂は、どうも厳しいなと思った時、回り道をすればいいのですが、短気な私は、それが苦手です。角度の厳しい上り坂は、「ピピピ」と悲鳴を上げるのですが、怖いのは、下り坂です。下り坂の場合、悲鳴をあげずに走り出すことがあるのです。見えないうちから誰かが出てくれば人身事故になりかねません。これは大

丈夫だろうと思い、下ろうとした坂で、すごいスピードが出てしまい冷や汗を出したことがあります。

三つ目は、雨の日の鉄板（段差にかけられた）です。ほんとうによく滑ります。雨の時、この鉄板に斜めに入り、しかも、少しスピードが出ている時には、見事に滑ります。

おそらく、多くの技術者が、こうした限界と向きあってきたのでしょう。すべての課題について言えることですが、私たちは、あらゆる限界と向き合っていく為に、その限界を明らかにしていくことが必要です。

私たちが取り組む福祉実践が、当事者の要求を反映し発展するように、私たちが利用する補装具も、利用する私たちの要求を取り入れ、その開発が進むのです。私は、今、電動車いすをより使いやすい補装具にする責任を負っています。



# ジヨニーの炸裂日記11

ライスチヨウジヨナ(イラストレーター)

前回のあらすじ

ファッションに対して卑屈な考え方を持っていたジヨニー

は、ある日世界的ファッションモデル・山口小夜子を知り、自分の中の価値観を揺さぶられちゃって困惑している様子。

この異様なオーラを放つ山口小夜子という人は何者なのか。職業や経歴の話ではない。「この人は一体どういった人間なのか」ということが、私が知りたかったことなのである。写真はネットにもたくさん上がっているが、本質的な部分はやはり記事が載っている当時の雑誌や関連書籍などを読まないとわからない。最初に私が読んだ本『山口小夜子 未来を着る人』には山

口小夜子の代表的な写真の数々や膨大な経歴、そして彼女にゆかりのある著名人へのインタビューなどが幅広く載っていた。

山口小夜子と言えばその独特の見た目であるが、遡って見てみると、71年のデビュー当時はまだ彼女の本来の柔らかい顔つきが面影として残るが、77年頃にはおかつぱ頭で切れ長の目という、いわゆる「小夜子メイク」が完成されていることがわかる。

先月号でも述べた通り、西洋風のスタイルが主流であった当時において、山口小夜子はある日本人としての特徴を強く押し出すことによって、それを自身の確固たるスタイルとして確立した。普段の私であれば民族性の類を強調するような考え方はあまり好きではないのだが、彼女の場合は決してそうい

った保守的なものではなく、世界に出ていく上で自らのアイデンティティを武器とする方法はむしろ世界の価値観を広げ、個性の大切さを示した画期的なものであったと言えるだろう。

また、山口小夜子の人となりに関するエピソードもとても印象深い。世界的モデルとして表舞台に立ち続けた山口小夜子だが、幼少期はコミュニケーションが苦手な家で籠りがちだったという。

人形の服を着せ替えたり、ファッション誌の切り抜きを集めたりして楽しんでいったという彼女にとって、突如舞い込んだモデルの仕事はあくまでもその延長であり、同時に外界との繋がりを実感できる手段でもあったことがその生い立ちを調べる中で読み取ることができる。同じく幼少の頃から人付き合いが苦手な一人ではそれを仕事とすることで多くの人々と関わることができて

いる自分にとって、この話は強く共感せざるを得ない。

モデルとしての一線を退き、舞踏や演劇などの分野にも進出した後期の話も特に興味深い。

残されている写真や映像の中からそれらのパフォーマンスを見てみると、まるで人間性を排除した無機質な人形のような狂気を帯びているように私は感じた。「表現をする」という分野にも関わらず初期の頃とは打って変わって、精神を内へ、さらに内へと向けるかのようなパフォーマンスは、彼女のファッションに対する考え方から来るものではないかと私は考えており、それ自体が私のファッションに対する考え方を変えた一つでもあるのだが、引き続き話も長くなりそうなのでまた次回へつづく。

# つれづれあらぐさ

場面㊦ 16 時前、

帰りの挨拶をする

夕方、「今日は中山さんいるかなあ」と話す通所職員と一緒に、彼がやって来ます。事務室の窓の外からのぞき込んだり、ドアからひょこつと顔を出したりしながらの登場です。彼とはあらぐさ同期で、共同作業所からの付き合いです。食器棚のガラスに映った自分の姿を見てポーズを決める姿（時にはコームで髪セットも）や他のメンバーの真似をして机をトントンする姿は、周りを和ませていました。

長い間休んでいた彼が、再びあらぐさに通所するようになって約1年が経ちました。通所を再開してからは、送迎車に乗る前に帰りの挨拶をしています。まずは「おつかれ様でした」と握手、「また明日〜」とお互



いの手を合わせて、「さようなら」と手を振るのが一連の流れです。週末は「金曜日」の確認が加わって、「また来週〜」です。

挨拶を終えて部屋を出る時は体を揺らして踊っていて、「イチ・ニー・サーン」の掛け声と一緒に靴箱へ。満面の笑みの時もあれば、真顔の時もあります。もともとは夕食のエビフライが楽しみで、エビの動きを真似したのがきっかけでした。今では、その日の気分によって踊っています。

ある日、一緒に来た職員が「1・

2・3」と言った後に、「ダー……」と大きな声。アントニオ猪木の物まねでした。また別の日は、彼がジャンプして着地すると職員がジャンプ。彼発信で、タチヨウ倶楽部のネタを繰り返して楽しんでいました。

自宅でご家族と過ごしていた期間は、近所の自動販売機に好きなジュースを買いに行ったり、ビデオを見たりしていました。ご家族は、いつまで続くのか分からない状況に先の見えないしんどさを口にされていまして。彼がもう一度あらぐさに通おうと思えるよう、必要な時はヘルパーが支援に入り、通所職員やメンバーの訪問を続けました。

昨年8月、訪問していた職員の「あらぐさ行く〜」の言葉をきっかけに、4年ぶりに通所。今年の8月からは、彼の「行く〜」という希望で短期入所の利用も再開しました。お気に入り職員やメンバーと過ごす姿を目にしながら、毎日「また明日〜」と気持ちを込めて伝えていきます。

中山 恵美子（あらぐさ福祉会）

あらぐさ福祉会は長岡京市にある社会福祉法人で、障害のある人たちの暮らしを支える事業を行っています。1986年に無認可の共同作業所を開所して以降、日中の通所から生活の場、ヘルパー事業所等、地域で暮らし続けるために必要なものを作り出してきました。今回の連載開始にあたり、「障害者の喜びと悲しみ、家族の喜びと苦悩、職員の働き甲斐と先が見えない苦悩…そういうことが浮き彫りになればと思います」とお話をいただきました。日々自分が経験していることや感じていることを通して、それぞれの一場面を綴れたらと思います。なお、内容については個人情報に配慮して構成しています。

# 2+2=詩

「記憶の明かり」

よい記憶は星明りのようにまたたいて  
悪い記憶は電灯のように煌々と輝く。  
いくつもあるはずのかすかな灯りは、  
たった一つの凶暴な光でかき消されて分からなくなつて。  
だから僕らはそれをたくさん集める。  
だからわたし達はそれを必死に思い返す。  
幸せな記憶の明かりが自分の中に満ち満ちるように。  
やがて薄れて消えるものだとわかつていても  
僕達はそうせずにはいられないのだ。

「影法師」

夜の街を歩く僕の足元に付いてくる、着いてくる、  
僕の影法師  
時に大きく、時に小さく。  
伸びて、縮んで、分かれて、消えて、現れて  
形はなく。音もなく。全ては僕と光に合わせて  
そんなあり方に彼は不満を抱いていないのか  
それとも楽しんだと気に入っているのだろうか  
聞いてみても答えが返るわけもなく  
僕もそれを期待したわけではなく  
夜の散歩は続く  
ただの影を供にして  
ただ影と共に



「お嬢さんの傘」

人気のない散歩道をあなたに連れられて二人で歩く  
時に私は体を揺らすわ  
振り子のようにぶらぶらと

あるいは軽業師のように回ってみせるわ  
貴方がその手を離さないなら

貴方の気分に合わせて、貴方の動きに合わせて、  
動いて踊ってみせましょう

観客なんていなくていいの。

ぶつかることを気にしなくていいから  
ねえ、だから貴方

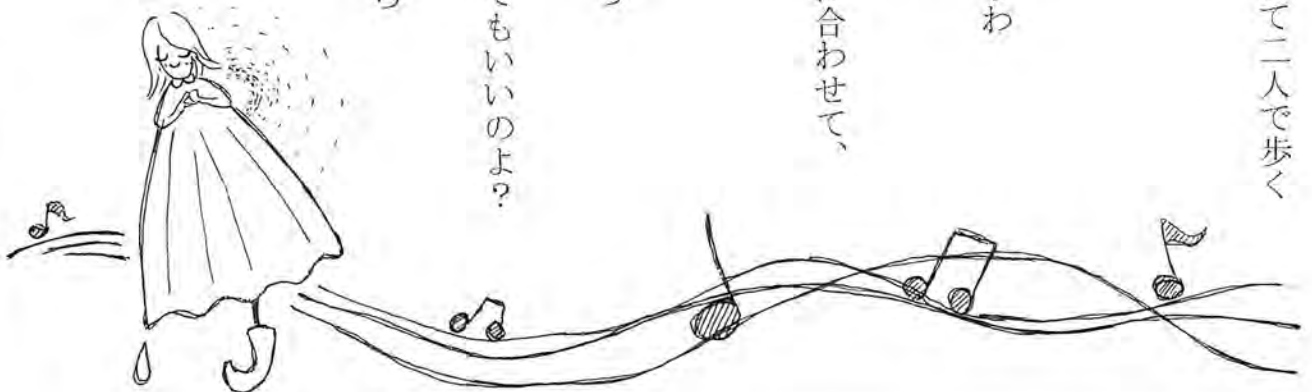
思い切り勝手気ままに私を振り回してもいいのよ？

そして空が感動のあまり泣き出したら  
私を高く持ち上げて

そうしたら私は大きく手を広げて  
貴方を雨から守ってあげる

だから濡れる心配はしなくていいの

貴方と私、二人きりでどこまでも  
さあ、歩きましょう





障害のある人の  
権利を守る 北障連から

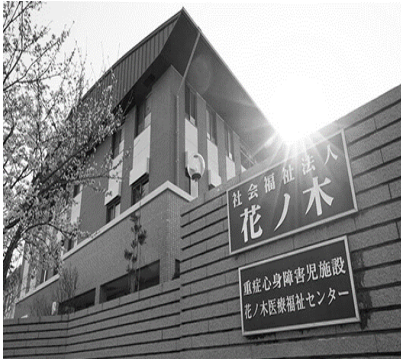
濱中博

「医療的ケアが必要な人も地域で安心して暮らし続けられるように」

「なごみの会」その①

『花の木医療センター』のような施設を、この京都府北部にも！

（※亀岡市にある病院を併設した重症心身障害児者施設）  
1968年開設から50数年）



こう願う与謝の海養護学校（現支援学校）ひまわり学級（重度重複障害の学級）卒業生の親が

中心となって集まった会が「なごみの会」です。現在は支援学校の通学生の子も加わっています。

明日への不安が十二年前の「会」の発足に繋がりました

障害児者の親は誰もが高齢化にともなう不安を抱えています。が、なごみの会の会員の場合は一層深刻です。

それは「子どもたち」の障害の重さから、加齢と共により厚い支援が必要となり、医療的ケアも欠かせなくなってきたため、何かあった時、安心して預けられる施設、医療的ケアができる施設が京都府北部にないからです。「何とかできないだろうか」の思いが「会」を発足させました。

夢だった「医療型ショート

ステイ」が実現！

行政の方々をはじめ、いろんな方たちの応援のおかげで「夢のまた夢・・・」と思っていた「医療型

ショートステイ」が二〇一五年一月より本格的に北部医療センター（旧与謝の海病院）で実現。そして翌年、京丹後市立の久美浜病院や弥栄病院でも実施となり、現在利用が進んでいます。

医療型ショートステイの優れた点は、病院が受け皿なので、安心して医療的ケアを受けることができます。更にうれしいことに、体調が良ければ日中はいつも通り、それぞれが利用している通所施設に通うことができます。

いつまでも親の元で

生活したい。でも!?!?...

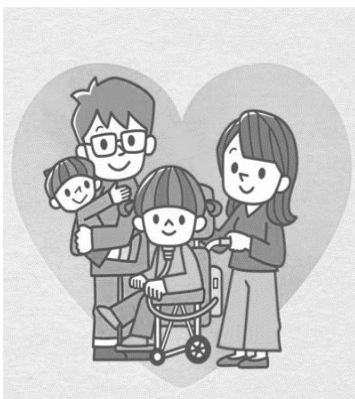
「どうしたらうまく栄養がとれるだろうか・・・」「一度「タダレ」ができるとなかなか治らない・・・」等々の悩み、「痰がからんで夜中も吸引が必要・・・」「度々抱きかかえて・・・」といった介護が必要・・・障害の重さゆえ日々の「こどもたち」の世話は大変です。それでも彼らの存在はかけがえがなく、笑

親が生きているうちに

安心して託せる施設を!

こんな中で、親が生きている内に、親亡き後、安心して託すことができる施設、制度ができるように！との思いはより一層強く、差し迫ったものとなっています。

（つづく）



# 365歩のマーチ



## 32 夢中になつてゆく

課するのが好きなようです。

工事現場のお兄さんにあこが

れているゆいちゃんには、引き出し

にあるドライバーを「勝手に」持

ち出し、家にある棚や踏み台のネ

ジを抜き、解体したり修理（壊し

たのは自分なのに）するのを楽し

んでいます。そんなゆいちゃん

を見て、100均ショップで、（ち

ゃうちい）ドライバーとネジでつ

くることができる恐竜のおもち

ゃを買ってへる（ちが）がピット。

手足や顔の向きは反対でとんで

もなく（こっけいな恐竜ができる

のですが、本人はドライバーを使

って工作できることに満足して

いるみたいです。こので、家の家

具にも平和がおとすれました。手

指を使って、（こっけいしたらどうな

るかな？）とこっけいとして試行錯

親戚から、「七五三のお祝い、

なんでも買ってあげて」とお祝い

をいただきました。なにを買おう

か…。一日の終わりに、「今日保育

園で何したの？」と聞くと「プロ

ック！」と毎日のように教えてく

れます。日中はいろんな遊びをし

ているようですが、延長保育での

ブロック遊びが楽しいようです。

家でも、雀の涙ほどしかない数少

ないブロックのパーツを組み合

わせて「消防車！」「ショベルカ

ー！」と健気に作成していたの

で、ゆいちゃんに相談して、プロ

ックを買ったことにしました。

休日、家族みんなでおもち

ゃ屋さんに出かけました。入店し

てからブロックコーナーまでに

\*

誘惑がいっぱいあったのですが、

「あっちにブロックあるよ」「これ

はおもしろくないよ」とあること

ないことを言いながら目的の場所

に何とか到着。ゆいちゃんこと

って、ブロックで魅力的なものは

難しいものやとんでもなく高いも

の…。ゆいちゃんはそれらの商品

を手にとっては「これ、高いな！

」安くならたら買おう」と言っ

てきます。無意識のうちにそんな言

葉をかけていたんだね…。最終的

に、消防入りを作るセットとい

るんなパーツがたくさん入ったセ

ットを購入。その日からゆいちゃん

んはブロックのとりこになりました。

「のりがに」「消防艇」「消防車」

「駐車場」などなど、自分なりに

考えてたくさん作品を生み出し

ています。保育園から帰ってきた

らブロック、夕食後もブロック。

遊んでいる時に「お風呂に入るよ」

と誘うと、「ゆいちゃん、今プロッ

クに夢中だから」と言っってなかな

か誘いに応じてくれませんが、そ

んな夢中になれることが見つ

って何よりです。ある休日の昼

下がり。母は資格試験の勉強、

父はパソコンに向かい、ゆいち

くんはいつものようにプロッ

ク。それぞれの時間を過ごして

いると、ブロックで何やら作り

ながら「誰も遊んでくれないじ

ゃん」と一言。母と父はばつ

悪そうな顔を見合わせます。夢

中になれるからといって一人に

するのではなく、夢中になれる

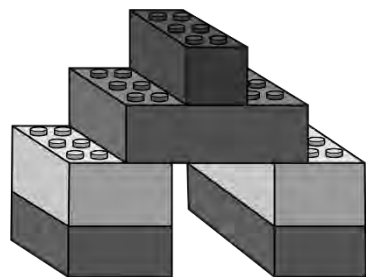
ほど好きなことを分かち合える

相手がいると楽しさも倍増する

ということをゆいちゃんから教

えてもらいました。

安藤史郎（あかひつね）の園



# 知っ得情報

## 図書等の在宅貸出

代表委員 松本 美津男

読書の秋。主に京都府南部の図書館で、委託業者などが家に訪れて、貸出・返却を実施している図書館があります。ここでは京都市の図書館が無料で実施している内容を簡単に紹介します。

〈対象者〉京都市内に在住し次の要件をすべて満たす人

(1) 身体障害者手帳1級から4級に該当する人又はこれに準じると認められる人

(2) 障害のため図書館へ行くことが困難な人

(3) 本人又は補助者により、自宅に配送された資料の受渡しができる人

〈登録手続き〉次のいずれかの方法で申し込む。代理人可。

(1) 電話、FAX又は手紙で京都市中央図書館へ申し込む。

(2) 最寄りの京都市図書館へ手帳の写しを持って行き申し込む。

〈貸出点数と貸出期間〉

20点まで、内、視聴覚資料は4点まで借りることができ、貸出期間は

貸出日の翌日から起算して31日以内。条件を満たせば貸出延長可。

〈問い合わせ先〉

京都市中央図書館

075-802-3133

FAX:075-812-5816

## あなたもぜひ 仲間に



サロン・サークル・地域活動展開中  
生活支援スタッフ(資格不要)募集中  
介護職員(資格要)募集中

ひとりぼっちの高齢者をなくそう  
元気な高齢者はもっと元気に

「よろず相談」承ります(随時)



あなたも支える存在に

京都市北区紫野東野町1-5  
電話075-432-3636

## 命の平等をかけた、 無差別平等の医療と 福祉の実現をめざす

### 働くひとびとの医療機関です

看護師・薬剤師・医師や医療技術者を

目指す方をご紹介ください



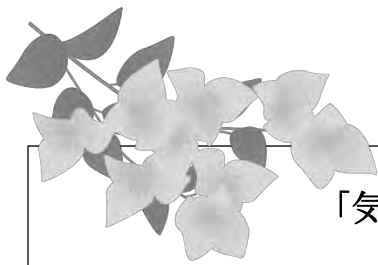
## 京都民主医療機関連合会

〒615-0004 京都市右京区西院下花田町21-3 春日ビル4階

TEL 075-314-5011(代) FAX 075-314-5017

Home Page <http://www.kyoto-min-iren.org>

e-mail: [info@kyoto-min-iren.org](mailto:info@kyoto-min-iren.org)



## 「気楽にお話ししましょう会」第2回

全国障害児者の暮らしの馬を考える会世話人 沖田 友子

7月に続いて「気楽にお話ししましょう会」第2回を10月24日に開催しました。今回参加者は12名で初参加も3名ありました。今回も自己紹介に続いて、不安なこと、心配なこと、聞いてほしいことを出しました。

介護者の体調が悪い時など、急に預けられるところがあるか知りたい。

生活介護の無い土日、母一人で最低限必要なことはしているが、皆さんどうされているか。移動支援など福祉サービスを利用しないまま頑張ってきて、コロナがやってきた。医療的ケアが必要な人を預けられるところがなく、土日親子でいると息が詰まってくる。各地で災害が起こっているが福祉避難所ができるに一週間くらいかかると聞くので心配している。学校時代は修学旅行など離れる期間があるが、卒業後はないので、宿泊を含むような行事があれば利用したい、一人になる時間がほしい。

成年後見について教えてほしい。

今は入所を考えられないけれど、自分が年齢を重ねたときのことを考えるとどうしたらよいだらう。自宅でヘルパーに来てもらい通所でできればよいのだろうか。

子どものことをしていたらあっという間に一日が過ぎてしまう。

などなど、今回もあっという間に1時間半がたちました。皆さん共通する課題としては…

土日預けるところ、緊急に預かってもらえるところ、実際使えるショートがない。災害時の避難所の確保、1週間どう過ごすのか具体的に明らかにする必要がある。年金だけ、10万程度で生活するのは難しい。というどれも切実な内容です。

今後、意見を積み重ねどのような動きにしていくか、相談しながら進めていきたいと考えています。参加したくてもできない方もいらっしゃるので、グループラインに参加してもらうことも始めました。徐々に参加者は増えています。卒業してからどこからも情報が得られなくて不安だった。つながってよかったという声をお聞きしているところです。

